

平成22年度 生物多様性ネットワーク形成支援事業
【池干しによる外来種駆除研修会】
開 催 概 要

1. 目 的

近年、豊かな自然とのふれあいへの期待が高まる中で、農村の自然環境を保全・再生する活動に取り組む団体が増えてきています。

生物多様性の保全再生活動の取り組みにあたっては、当該活動に関連する分野の科学的な知識とこれに基づく技術が必要ですが、このような活動はまだ緒についたばかりであり、実際には各団体が試行錯誤を重ねている状況です。

このため、生物多様性の保全再生活動に取り組む団体が今後効果的かつ円滑な活動を実施していくための知識と技術の習得と、活動団体間の情報交換・共有のためのネットワークの拡がりを目的とし、本研修会を開催します。

2. 主 催

ナマズのがっこう

3. 共 催

社団法人農村環境整備センター

3. 開催日程

平成22年11月19日（金）13時～11月20日（土）15時 （2日間）

4. 会 場

エポカ21（宮城県栗原市志波姫新熊谷279-2）

* 東北新幹線「くりこま高原駅」東口に隣接しております。

* 実技は栗原市築館横須賀曾内の西谷地ため池で行います。

5. 対 象 者

外来種駆除や農地・水・環境保全向上対策に取り組む団体や個人、関心のある方

* 特に、農業水利施設の外来種駆除に取り組んでいる団体・個人、これから取り組んでみようと考えている団体・個人の参加を歓迎します。

6. 定 員

100名程度

7. 参 加 費

1,000円（テキスト代）

* テキスト代の他、2日目の現地実習に伴い傷害保険へ加入するため、保険料として300円を集めさせていただきます。（1日目のみ参加の方は不要）

* 会場までの交通費および研修期間中の宿泊・食事にかかる費用は参加者の負担となります。（宿泊の予約は各自お願いします。）

8. 研修内容

【第1日目】

- (1) 「日本における生物多様性の現状と外来種をめぐる問題とその取り扱い」
- (2) 「伊豆沼・内沼と周辺の外来種の現状」
- (3) 「伊豆沼・内沼の外来種駆除方法の開発、取り組み」
- (4) 「アメリカザリガニの在来生物に及ぼす影響と駆除への取り組み」
- (5) 「駆除したため池に在来魚を復元しての食材としての可能性」
- (6) 「伊豆沼・内沼で捕れる魚の食材利用」
- (7) 「オオクチバスが進入したため池の被害～タナゴ生息地の事例」
- (8) 「池干しによる外来種駆除方法について」
- (9) 明日の実技要領の説明

【第2日目】

- (1) 池干しによる実技研修
- (2) 意見交換会と参加者の事例報告

★農業農村工学会技術者継続教育機構（CPD）ポイント

本研修は、農業農村工学会技術者継続教育機構の認定プログラムに申請中です。

9. 情報交換会

情報交換会をふゆみず田んぼ米の試食を兼ねてエポカ21で行います。

情報交換会の参加費は4,500円です。

10. 参加申し込み

申し込みは別紙様式にて、メール又はFAXで11月8日（月）までをお願いします。

11月19日（金）または11月20日（土）の1日だけの参加や情報交換会からの参加も可能です。なお、宿泊等については別紙にてご案内しております。

FAXでのお申し込みの場合は、自宅又は勤務先をお願いします。

（自宅FAX：0228-23-8566、勤務先FAX：0226-46-4077）

11. 問い合わせ先

『ナマズのがっこう』 事務局長 三塚 牧夫

■TEL・FAX：0228-23-8566 ■携帯：080-1835-0917

■メール：namazu-mm@maroon.plala.or.jp

■住所：〒987-2226 宮城県栗原市築館字八沢中谷地103-5 三塚宅

※急用の場合は、職場に連絡願います。

宮城県気仙沼地方振興事務所南三陸支所

TEL：0226-46-3600（内線2001） FAX：0226-46-4077

メール：mitsuzuka-ma224@pref.miyagi.jp

＜カリキュラム＞

◆ 1日目（座学）

時間	内容	講師等
	開始、挨拶	
13:00～13:50	「日本における生物多様性の現状と外来種をめぐる問題とその取り扱い（仮題）」	ビオトープを考える会 会長 長谷川 明子 氏
13:50～14:15	「伊豆沼・内沼と周辺の外来種の現状」	伊豆沼・内沼環境保全財団 進東 健太郎 氏
14:15～14:40	「伊豆沼・内沼の外来種駆除方法の開発、取り組み」	伊豆沼・内沼環境保全財団 藤本 泰文 氏
14:40～15:05	「アメリカザリガニの在来生物に及ぼす影響と駆除への取り組み」	伊豆沼・内沼環境保全財団 芦澤 淳 氏
15:05～15:15	休憩	
15:15～16:05	「駆除したため池に在来魚を復元しての食材としての可能性（仮題）」	日本大学 生物資源科学部 食品経済学科 助教 久保田 裕美 氏
16:05～16:30	「伊豆沼・内沼で捕れる魚の食材利用」	伊豆沼漁業協同組合 組合長理事 遠藤 吉雄 氏
16:30～16:50	「オオクチバスが進入したため池の被害～タナゴ生息地の事例～」	(株)三祐コンサルタンツ 仙台支店 星 美幸 氏
16:50～17:15	「池干しによる外来種駆除方法について」	三国屋建設コンサルタント(株) 久保田 龍二 氏
17:15～17:30	明日の実技要領の説明	ナマズのがっこう 事務局長 三塚 牧夫

◆ 2日目（実技）

時間	内容	講師等
8:30～12:00	「池干しによる外来生物駆除」	ナマズのがっこう 伊豆沼・内沼環境保全財団
12:00～13:00	昼食（在来魚料理）	
13:00～15:00	意見交換会と参加者の事例報告	

※カリキュラムは当日の天候等により変更する場合があります。予めご了承ください。

※泥で汚れますので着替えや長靴は各自持参願います。

※ウエダーおよび採捕道具は主催者で準備します。

【講師プロフィール】

はせがわ あきこ 長谷川 明子

【所属】ビオトープを考える会 会長

大学卒業後、(財)自然環境研究センターにて動物調査員として勤務。その後、名古屋大学理学部生物学教室にて遺伝子解明の実験助手を経て、動物・植物・自然について学ぶ専門学校にて教鞭をとる。東アフリカ野生生物管理大学(タンザニア)へ短期派遣他、動物行動調査員としてアフリカへ数度渡る。現在、1級ビオトープ計画管理士として、研究・講演活動に従事しつつ、五感をトレーニングしながら自然を保全する方法等について講義を行っている。主な著作に、『生物多様性 私と地球を元気にする方法』(技報堂出版)などがある。

くぼた ゆみ 久保田 裕美

【所属】日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科 助教/博士(農学)

食料政策を主眼におき、持続可能な農業と食生活に向けての調査研究、および食コミュニティの再生に係る調査研究を行っている。米国の食品企業と環境 NPO への留学経験のほか、国内外で実施したフィールド調査や、国の研究機関での研究活動を通して得たノウハウを基に、食に関わるアンケート調査、地域コミュニティの実態分析、海外の食情報の動向分析等を実施している。主な著作に、『食と農の乖離(単著)』などがある。国内の NPO 支援組織、農業・農村分野の研究機関を経て、平成 22 年 4 月より現職。

しんどう けんたろう 進東 健太郎

【所属】伊豆沼・内沼環境保全財団 研究員

北里大学水産学部卒。その後、宮城県に移住。平成 14 年から財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 研究員。現在、伊豆沼・内沼や周辺地域における外来魚の駆除活動、希少淡水魚の保全活動に関わり、伊豆沼・内沼の自然再生に取り組んでいる。

ふじもと やすふみ 藤本 泰文

【所属】伊豆沼・内沼環境保全財団 博士研究員

淡水魚の保全をテーマに、ラムサール登録湿地の伊豆沼・内沼で研究活動に取り組む若手研究者。魚類の繁殖生態について、多くの研究論文を発表している。現在の研究の焦点は、フェロモンを用いた外来魚防除技術の開発。オスがメスにプロポーズするために使う性フェロモンを利用してブラックバスなどの外来魚を駆除するというもの。「生き物を知ることで、より確かな技術ができる」と述べ、日々研究活動に取り組んでいる。

あしざわ じゅん
芦沢 淳

【所属】伊豆沼・内沼環境保全財団 研究員

東京海洋大学大学院を卒業後、本年度より伊豆沼・内沼環境保全財団に勤務。在学中は、ため池における外来種の駆除や、外来種が在来種に及ぼす影響等について研究を行う。現在は、オオクチバス・ブルーギル等の外来種の防除や、在来種復元のための研究を行っており、特にアメリカザリガニの駆除技術開発に取り組んでいる。「食べて供養する」をモットウに、外来種の利用も積極的に行っている。これまでに供養した外来種は、バス・ギルをはじめ、ライギョ・ザリガニ・ウシガエルにまで及ぶ。ザリガニを用いたエビチリは特に美味。

えんどう きちお
遠藤 吉雄

【所属】伊豆沼漁業協同組合 組合長理事

平成 15 年 4 月より、組合長理事になり、組合の漁業および外来種駆除、伊豆沼・内沼の自然再生に取り組んでいる。

平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月まで、宮城県内水面漁業協同組合連合会監事
平成 22 年 4 月より、宮城県内水面漁業協同組合連合会理事に就任

ほし みゆき
星 美幸

【所属】(株)三祐コンサルタンツ 仙台支店

平成 21 年宮城大学食産業学部環境システム科卒業。地元である宮城県伊豆沼・内沼の生態系保全やバス駆除活動に参加し、卒業論文で「侵入直後のオオクチバス *Micropterus salmoides* が短期間のうちに溜め池の生物群集に及ぼした影響」についてとりまとめる。大学卒業後は国内外における農業・農村開発、水資源開発等についてのコンサルティング業務を行っている株式会社三祐コンサルタントに入社し、現在、農業農村整備事業の各技術分野についてのコンサルティング業務に係わる設計補助員として勤務している。

くぼた りゅうじ
久保田 龍二

【所属】三国屋建設コンサルタント(株) 東北事業所 技師長

昭和 62 年 北里大学水産学部卒業後、民間の環境調査会社を経て現在に至る。専門は主に淡水魚類であるが、ダイバーとして海域、河川、湖沼など様々な水環境に潜り、北は知床、南は沖ノ鳥島まで赴き各種調査を行ってきた。平成 13 年から宮城県を拠点に伊豆沼・内沼、松島湾などや東北 6 県の水域で公私において活動している。日本水環境学会、NPO シナイモツゴ郷の会、NPO 環境生態工学研究所に所属。また、技術士、潜水士、ビオトープ管理士、港湾海洋調査士、魚食スペシャリスト検定の資格を有する。

※敬称略

研修中の宿泊・食事、および国内旅行傷害保険への加入等について

●宿泊について

研修会場の「エポカ21」にはホテル（「ホテルエポカ」）が併設されています。

ご参加のみなさまには、この「ホテルエポカ」をご利用いただくことをお勧めします。

予約および精算は各人で行っていただきますが、予約の際には必ず「外来種駆除研修会に参加する」旨、申し添えてください。

部屋数が足りなくなる場合もありますので、お早めにご予約ください。

【ホテルエポカ】 <http://epoca21.co.jp/>

電話：0228-23-8866

ファクシミリ：0228-23-8880

部屋の種類	1室あたり料金 (税込)	研修会参加者は10%引きになります。 予約の際に必ずお申し出ください。
シングル	6,300円	6,300円 → 5,670円
ツイン	10,500円	10,500円 → 9,450円
スペシャルツイン (3名泊まれます)	15,800円	15,800円 → 14,220円

※朝食は別料金（840円）となっています。

●保険について

あいおい損保の国内旅行傷害保険に加入します。

保険料は、300円です（入院補償5,000円/日、通院補償3,000円/日）。

当日受付の際に集めます。

●実習場所への移動について

研修中、エポカ21から実習場所のため池までの移動には、事務局で手配したバスをご利用いただきます。

「 外来種駆除研修会 」 参加申込用紙

FAX 送付先 0228-23-8566 (自宅) 又は 0226-46-4077 (勤務先)

申込期限 平成22年11月8日

参加者氏名		男 女
		男 女
		男 女
事例発表の希望		題目 2日目の意見交換会で
連絡先	郵便番号	〒
	住所	
	電話番号	
	Eメール	
所属		
11月20日(土) 昼食 (受付時に予約受けます)		1,200円 1. 申し込みます 2. 申し込みません
情報交換会の参加 (会費 4,500円)		1. 参加します。 2. 参加しません。
連絡事項		1日のみ参加の場合、 日時に丸印 1. 11月19日(金) 2. 11月20日(土)

- ・ 情報交換会の当日のキャンセルはキャンセル代を徴収します。
- ・ 所用で情報交換会に出席できない場合は、2日前までに三塚に連絡をお願いします。